

みうらトーク&トーク 令和5年度第3回

<日時>

令和6年2月19日(月)
9時45分～12時35分
(2時間目～4時間目)

<テーマ>

三浦の産業を元気に

<参加者>

南下浦中学校2年生
参加者96名



<概要>

市長挨拶

こんにちは。私はこの南下浦中学校の卒業生で、だいぶ前に、ここに通っていた。そのころは上宮田小学校がなくて、隣の南下浦小学校に来ていた。当時の中学校はこんなに立派な校舎じゃなくて木造の校舎だった。南中の卒業生なので身近に感じてもらいたい。

今日は緊張するかもしれないが、普段通りでいいので、率直に思いを伝えてほしい。さまざまな意見をこれからの三浦市政に反映していけたらなと思ってこういう機会をいただいた。参考にならないということはないので、どんどん率直な意見を言ってほしい。

発表の概要

【2時間目】

1 班目

観光客を増やそう

市の現状

若者が遊ぶスポットが少ない、交通機関が少ない、観光客が来にくい

提案

①観光スポット増やす、ショッピングモールの建設（三崎口駅付近に）

②イベントを増やす、シーズンごとにイベントを

宣伝方法

若者が使用するSNSで、多言語や著名人の協力を得て

市長講評

観光スポットやSNSでの広報など、三浦市でもやろうとしている。参考になる。

2 班目

観光2

現状 三浦市は観光客が2020→2021の1年で2000人しか増えていない

駐車場不足

- ① 三浦市にしかないものを作る
地産地消メニューが出されている→スイカ・マグロといった特産物を利用した食べ物
SNSで拡散
- ②魅力的な観光スポットを作る
観光客に「行きたい」と思わせるために娯楽施設を作る
ゲームセンター、映画館
- ③多言語化
市内のポスターや看板を英語、中国語、韓国語で
- ④キャラクターを増やす
考えたキャラクターを提案 スイカ・大根をモチーフにしたキャラクター

市長講評

問題点をきちんととらえている。行きたいと思わせるというのは、まさしくそう。キャラクターは新しい視点だ。新しい発想で取り組んでくれている。

3班目

観光3
アクセスをより良く
課題 アクセスが悪い 三崎周辺に観光地が集約しているのにアクセスが悪い
宿泊者が少ない 三浦の宿の良さが伝わっていない
改善案 多くの観光スポットやテーマパーク、アクティビティを作る 一年中楽しめるもの ペットと一緒に泊まれるホテルなど
市の活性化 若い世代に注目を
三浦市に住みたい 三浦で働きたいと思わせる環境づくり アクセス改善に期待 SNSで積極配信
大型ショッピングモールの建設
映画館、日用品、特産品などを販売 → アクセス改善のきっかけに
まとめ
人が入ってくるきっかけを作りアクセス改善のきっかけを

市長講評

宿泊者が少ないのは現実的な問題、三浦市の観光の課題だ。問題意識を持ってくれている。

4班目

漁業
課題を指摘
マグロの養殖を
海をきれいにする → ブランド化
漁港が盛り上がる 働きたいと思われるように
漁業の体験（仕事を見せよう） 食べ物に対する意識の変化 仕事を知ってもらえる
働く場所への視野を広げてもらえる
学校の給食
新メニューを増やす マグロやかつおなど

まとめ

三浦の海に興味を持ってもらうこと

市長講評

漁業をテーマにしてくれた。三浦市でも取り組もうと思っていること。市は「海業」という言葉を使って、漁業を中心に経済を活性化させていく。市内全域に広げていく。タイムリーな研究だった。

5 班目

農業

日本の農業の現状

高齢化・人手不足 農業従事者が減少 新規参入のハードルの高さ

食料自給率が低下 耕作放棄地の増加 害虫発生など悪影響が大きい 負のスパイラルに
三浦市内でも農業就業者数は減っている 高齢化も進んでいる

提案 農業体験

人手不足の解消が目的 知ってもらうことが第一 農業を身近に 学生の視野を広げる・
興味を持ってもらえることに役立つ

市長講評

問題点把握がよい。農業体験の提案、一つの方法かなと感じた。

6 班目

農業2

バイオマスセンターの増設と規格外野菜の利用

バイオマスセンターとは

毘沙門に1つしかない 残渣の処分ができなく異臭が発生している

提案 各地域に1つ増設 不法投棄の減少に

規格外野菜の利用

捨てている規格外野菜を学校給食に 食品ロスにもつながる

一般流通に影響はない

市長講評

バイオマスセンターの増設は難しいが、利用方法を勉強してくれたことはいいこと。規格外野菜の利用は大きなテーマ。農産物は何十年と値段が変わっていない。コストに見合う価格が安定していない。需要と供給のバランスで価格が決まっている。規格に満たない野菜は廃棄になってもったいない。これをいかに使用するかを市内農家や農協と連携して考えている。必ずしもすべて利用できるわけではないが問題意識をもってくれていることは非常にいいこと。

【3時間目】

1 班目

三浦市のイベント

課題 インバウンドによる観光客にも対応した情報発信が必要。約9割が日帰り客で近郊からの来訪客が主体

改善策

①諏訪神社の夏祭り 情報発信が少ない

改善 学生の目につきやすい場所にポスターを貼る、インパクトのあるポスターに

②桜まつり 駐車場が少ない

改善 空いている場所を一時使用する

③マラソン 参加者減少傾向にある 情報発信が少ない 開催日が東京マラソンと同日

改善 大会情報を積極的にアピール ホノルルマラソンや景色など三浦マラソンにしかない特徴を SNS活用を

④ミカン狩り サイトを改善すべき 農園情報が充実しているのは良い 英語表記も良い

改善 お土産付き 電車で来る人は大変 各農園の情報が文字だけなので雰囲気が伝わる写真掲載を 多言語化を

⑤花火大会 募金による運営 駐車場が少ない 知っている人が少ない

改善 募金をネットでもできるように 海岸近くの駐車場・ホテル駐車場を利用 動画配信などでアピール

⑥チャッキラコ 知名度が低い

改善 メディアを使用して配信を キャッチコピー的なものを

市長講評

非常に参考になる意見もあった。ミカン狩りのサイトは早速観光協会に話して来年度に向けて対応したい。桜まつりは駐車場不足が深刻だから改善していきたい。各テーマについて課題や改善策を提示してくれてよかった。

2 班目

宿泊客を増やそう

現状 年間630万人の観光客があるが、その9割が日帰り 県外客が少ない

提案 自然を楽しむ宿泊バスツアー 一泊二日 小網代の森で豊かな自然を楽しむ

行程 一眼レフを貸し出して自然を楽しむ 引橋から宮ノ前へ 所要時間1時間 その後宿泊

宿泊先は三崎の山田酒店 海にも近い 城ヶ島も見渡せる

ご飯 三浦の特産物を 兜焼き

市長講評

観光の課題で日帰りを中心というのがある。宿泊滞在型観光はこれからのテーマ。宿泊バスツアーに絞った提案は良かった。日帰りバスツアー企画はあるが、宿泊バスツアーの企画はあまりない。

3 班目

三浦市の観光業 ～SNSをつかって魅力を伝える～

課題 観光客の9割が日帰り 近郊からが主体 宿泊客を増やす必要あり

提案 SNSを使用して情報発信を

メリット 遠方の方や外国人など情報がたくさんの人に伝わる 情報の拡散性が高い

事例 葉山町のインスタ、広島市のTikTok

TikTok がいい 若者に刺さる #を付けることで三浦市の情報を見つけやすくなる

見た人が泊まりたいと思える情報を発信する

ホテルの朝食を特産品中心に 三浦ダイコン 春キャベツ かぼちゃなど

泊まらないと見えない景色を発信 城ヶ島から見る日の出など

魅力の伝え方を工夫すべき

市長講評

宿泊客を呼び込む方法として SNS を活用するのがテーマだったと感じる。若者の視点で
もうすこし突っ込んでどうしたらいい、という内容があったらもっとよかった。日頃から
SNS に馴染みのある皆さんから効果的な発信の方法を教えてもらいたい。

4 班目

漁業

課題 漁港が活用されていない、後継者が少ない、海洋資源が活用できていない

提案

①漁港をレクリエーションの場へ

②後継者獲得のために漁師体験を

③海洋資源を活用するために魚を使った商品を作る

漁師体験

漁師の数が少ない 小中学生に魚と触れ合う体験を増やす 初声にタコ漁を体験できる場
所がある

レクリエーション

マリンスポーツ、釣り・ダイビング・磯遊び

魚の商品化・・・不足している栄養素（タンパク質、ビタミンなど）を補える

マグロ マグロ味せんべい（固め・普通・やわらかめ）、缶詰

カゴカキダイ 煮つけ、鱗を使った化粧水

イトヒキアジ 干物、フライ

成功例 いちやキムチー（沖縄） アイゴアヒージョ（岡山）

市長講評

漁業をテーマに研究をしてもらった。三浦市は「海業」という言葉をテーマにしてい
る。その中には漁港の多目的活用などもある。漁港が利用されていない。皆さんの研究テ
ーマと三浦市がやろうとしていることが合致している。三浦市は海に囲まれている。もっ
と海について考えて、海に親しんでほしい。

5 班目

漁業

課題

少子高齢化で漁業者が減少 跡継ぎの問題 ブランド化を進める

改善

デジタル技術を活用し事務を効率化 SNS で情報発信 職業体験

漁業者減少の理由は、少子高齢化・労働環境の厳しさ・密漁、乱獲

ブランド化

現在のブランド魚 松輪サバ、三崎黒潮キンメ、三崎マグロ

このほかにもブランド魚を増やす キンメを加工した商品の具体的説明を 加工商品を増
やす

松輪サバを知らない人が結構いる

ブランド化のために SNS の利用を

市長講評

漁業者の減少はとても大きな課題。三浦市は比較的恵まれている方だが、全国的な問

題。ブランド化は大きなテーマ。希少価値があるからブランド化できる。どうやったら活用できるか意見をいただいた。参考にしたい。

6 班目

商業

課題 お店が目立っていない 交通の便が悪い お土産が買えない ニーズにあったお店が少ない

解決 看板を工夫 バスを増やす 駅の周辺にお店を出す 若者に合った企画を活かしたいところ

特産品を活かしたまちづくりを→SNS に発信して宣伝→外からの来客も増える→三浦のまちが発展する

駅周辺の発展

三崎口駅は周辺のお店が少ない

空き店舗を利用し SNS 発信 イベント開催 土産物店を作る（有名店と特産品のコラボなども）

空き家を使用してお店を増やす 三浦市は空き家が多い 食べ歩きが好きというニーズに合う

土産が少ない 宣材写真があまり広まってない 興味がわく写真が少ない

市長講評

お店が少ないのは本当の課題。駅の近くに土産物屋がない。京急と一緒に実現にと取り組んでいきたい。

【4 時間目】

1 班目

三浦ラウンドワン計画

課題 小売店舗の減少 特に衣料品などは 10 年で半数程度に 時代に合った店舗の工夫が必要

提案 人が集まる施設を ①ゲームセンター、②遊園地、③デパート その中でも現実的にはゲームセンターなどのアミューズメント施設を→ラウンドワンを建設してほしい

ラウンドワンとは 国内 100 店舗

建設場所 三戸プロジェクトの場所に 土地が広く駅が近い

理由 ラウンドワン・スポッチャが近くにない 駅が近い 眺めがいい 人が集まると街が発展する

ラウンドワン・スポッチャの最寄りが横浜・川崎 遠い

ゲームセンター（メダルゲーム）には高齢者も集まる ゲームセンター最寄りの横須賀中央が少し遠い

ターゲットは全年齢

ラウンドワンである理由 ①ゲームセンターだけでなく、スポッチャ・ボーリング・カラオケなどの複合施設である ②資金はラウンドワンが出す ③24 時間営業

まとめ 移動手段の増加や終電対策にも

市長講評

的を絞っての提案は新しい発想だった。三戸プロジェクトはこれからの話だが、三崎口

駅周辺の開発は京急も考えている。

2 班目

ショッピングモール in ドンキ

課題 少子高齢化 観光客が海にしか興味がない お土産が少ない

今後の三浦市のために 総合ディスカウントストアを

例としてドン・キホーテ

理由①お土産を売る場所 ②空き店舗の活用

ドンキは業績好調

ドンキにお土産コーナー ドンキに魚屋「サカナタベタイ」 ドンキに野菜

三浦市の特色のあるドンキに

市長講評

問題点をとらえたうえで、解決策としてドン・キホーテに絞ってくれた。本当に効果があると思う。誘致は難しいかもしれないが、進出の話があればお願いしたい。

3 班目

三浦市をより良い方向へ！

課題 観光は回遊性が低い 交通機関が不便

対策

回遊性が低い→三浦独自の観光スポットが必要 お土産や食べ物、キャラクターを SNS で拡散 祭り・伝統文化の紹介などで三浦の良さをもっとアピール

公共交通機関の問題点

バスの便が少ない 来るのが遅い場合がある 道がデコボコ

提案・改善

駅から観光地までの道を整備 道路整備を 走りやすくなり観光しやすくなる

バスは通勤通学時間帯に特化して増やす

市長講評

三浦市の回遊性が低い、バスが少ない、道が悪いなど指摘をいただいた。道路整備は順次やっているが、なかなか進んでいない。バスについては京急との打ち合わせ時間を作っている。

4 班目

MIURA CITY FESTIVAL

現状 今は祭りが少ない＝楽しみが少ない 観光するイベントが少ない

解決策 春夏秋冬のイベントを増やす 人口減少の抑制や観光客の増加に

春 ひな祭り・こどもの日 ひな人形を駅前に飾る イースターエッグ探し大会

夏 流しそうめん大会→千切り大根を主に流す かき氷まつり 巨大おでん作り→三浦のダイコン、キャベツ、魚介類を用いたおでん

秋 職業体験→駅員体験、パン屋体験 収穫祭→ぶどう・梨の収穫祭

冬 冬に写真が撮れるスポットを クリスマス→河津桜にイルミネーション、駅前にイルミネーション、桜まつりライトアップを豪華に

アンケートを取って実施へ

市長講評

イベントをテーマに研究してくれた。発想がよかった。イベントは主催者が方向性や集

客方法、費用を研究して一体となったイベントにしないと成功しない。地元の人にアンケートというのは非常にいい手法だ。地域の人と一緒にやらないと成功しない。南中文化祭で皆さんが発案した大きなイベントを仕掛けてくれたら面白いと思う。

5 班目

三浦の特徴を生かした観光をアピールしよう

課題 人口減少・高齢化による活力の衰退、商業施設の撤退、空き家の増加があり、人口減少を止める必要あり

観光の発展で三浦の活性化を

手段 SNS テレビ広告 ネット広告 → SNSが現実的

町に新たな要素を加えた新感覚の観光を

具体例 温暖な気候や歴史を利用したイベント、オープントップバスを活用、フォトジェニックスポットを作る→現代風なものを取り入れてギャップを生かす

提案 三崎の昭和な街並みを生かしてイルミネーションなど 映える場所に より一層和風にする まちなみに合わせたレトロな駄菓子屋にマグロの巨大な像を設置する 同じような店を増やして雰囲気づくりを

効果 昭和レトロな街並み開発で空き家を店舗に→空き家減少 イルミネーションで観光客の増加 知名度が上がる

市長講評

観光を進めることで移住者を増やす、これは究極の目的。このテーマをとらえてくれているのはよかった。マグロのオブジェ。珠洲市は大きなイカのオブジェがある。当初は批判も多かったが、今では街に人を呼ぶ効果となっている。そういった発想をもってくれているのがいいことだ。

6 班目

農家の少子高齢化

現状

農家が減少している 少子高齢化委による人手不足 跡継ぎ不足

解決策

就労環境・労働条件の改善、外国人技能実習生の採用→働く人を増やす より少ない労働力で生産力を増やす 機械化も必要

三浦市の農家を知ってもらうために、より多くの店で農家の写真を飾ってもらう 間接的に生産者と消費者がつながる

三浦野菜のブランド化

① SNSを活用した情報発信を

② 農業体験を増やす 農家の写真を使った農業体験ポスターをつくるなど 体験ができる場を増やす

ブランド化できれば、三浦野菜を作りたい、農家を救いたいと思ってもらえる

市長講評

農家をテーマにしてくれた。基幹産業である農業を勉強してくれたのは嬉しい。三浦市の農業は東京に近いと全国的にみると非常に恵まれている。産地と消費地が直結している。農業は畑を基礎として自分たちで作っていく産業。非常に大事だ。農協・農家ともに

改めて対策を考えていきたい。

7 班目

漁業の活性化

現状

マグロはえ縄漁船の減少で取扱高は減少 高齢化率 41% 新規就業者が少ない 漁業就業者は減少している

課題

①マグロ以外の水産物の知名度が低い、マグロをとるのが難しくなっている→他の水産物の知名度を上げ、マグロの町から水産物のまちへ

京急など多くの人が集まる場所へ広告を 大きいQRコードなどインパクトある内容に京急利用者も増える

駅周辺に三浦の魚を使った店を増やす 市から補助金を

②漁師の減少

減少理由は収入が低いこと 年々平均収入が減っている → 魚のブランド化による適正価格での販売を

若者は漁師にマイナスイメージがある

未来漁師育成プラン

③小中学校で漁師の体験を

④漁師についてSNSで情報発信

⑤海に関する博物館を設置

デジタル技術を活用してスマート水産業を → 漁師の負担を減らす

市長講評

漁業も三浦市の大切な産業だ。漁師育成プランは非常に新しい考えでよかった。

意見交換

市長

問題意識を持ってくれているところは非常にいいことだ。観光業の問題はどこだと思っているか？

生徒

目につきづらい。箱根や横浜といった有名な場所に目が行って、三浦に目が向かない。

市長

逆にいいところは？優位性があるところは？

生徒

豊かな自然。三浦海岸や小網代の森など。

生徒

自然を生かしている。

市長

三浦海岸は今とてもきれいになっている。地元の人が河津桜を 1,000 本植えてくれた。今年で 20 年。地域の人々の取り組みでこれだけの人が来てくれるようになった。

三崎漁港は取扱高全国で 7 番目くらいの大きな港。ほかにも市内には漁港がたくさんある。課題もある。高齢化、漁業だけでは生計を立てられないなど。「海業」といって、海に関わる産業の連携をテーマに取り組んでいる。金田や松輪の漁港についてもリニューア

ルしていく予定だ。海洋教育を進めている。これも海業につながらないかと考えている。海をきれいに、漁港に来る人を増やすのは、まさにその通りだ。

バイオマスセンターは、産業残渣をエネルギーに変えていく施設。資源化につながる。規格外野菜についてもホットな話題でいいと思う。

市長 SNSは普段は何を利用しているのか？TikTok か？

生徒 YouTube、インスタグラムなど。

市長 最近市でもインスタグラムやXなどをやっている。YouTube はやってないが。観光地では非常に大きな効果があるので注目している。まだまだ足りないと感じる。もっと SNS を利用した方がいいという意見が多かった。貴重な意見だった。

生徒 今後の三浦市を具体的にどんな風にしていきたいか？

市長 今の人口は4万人程度だが、多かったときは5万4千人いた。1万人以上減っている。横須賀や三浦は平地が少なく、住宅地が広がらないため人口が減ってしまっている。若い世代が通勤のために東京や横浜に住んでしまい、高齢化率も高い。これを踏まえてコンパクトな市を目指していく。風光明媚な三浦市の魅力を高めて、多くの人に住んでもらえるような施策を進めていきたい。

生徒 三崎警察署付近の渋滞改善は？

市長 三浦縦貫道路が三崎口駅近くまで伸びる予定。三戸から小網代を通して三崎の漁港までくる西海岸線道路の計画が進んでいる。ただ、時間がかかる。完成は皆さんが大人になってからだと思う。

※ 公表については了承を得ております。